

豊前國○中 田川郡四日、請文十三日、○中 略

寛正二年六月廿九日

備中守 奉 秀明○下 略

企救郡

〔郡名考〕豊前 企救今規矩郡

〔延喜式二十〕頭註 企救郡、今書規矩郡。  
民部

〔豊前國志一上〕企救郡名義

此郡の名義は、舊事天神本紀天孫降臨之條、筑紫聞の物部と記され、又雄略天皇御卷に、其十八年伊勢女郎反ク條、築紫聞物部大斧手と云人あり、其後企玖規矩など書、今企救郡と書く、此郡は國の西北の方にあり、東北は海、西は筑前遠賀郡鞍手二郡に堺、南は田川京都二郡に隣る、

〔續日本紀十三〕天<sub>武</sub>平十二年九月戊申、大將軍東人等言、殺獲賊徒、豊前國○中 企救郡板櫃鎮小長凡河内田道○下 略

〔大内家壁書〕從山口於御分國中行程日數事○中 略

豊前國○中 規矩郡三日、請文十三日、○中 略

寛正二年六月廿九日

備中守 奉 秀明○下 略

〔大友記〕藝州勢退散之事

鑑種○高ハ豊前ノ國規矩郡ヲタマハツテ、小倉ニ在城ス、

〔豊前國志三下〕京都郡の名義

京都郡

日本紀景行天皇卷、幸筑紫到豊前國長峽縣、興行宮而居、故號其處曰京也と云々、此時より京都郡の名起れりと云、如本文長峽縣にいたりとあれば、是より前の名早く長峽縣と云ふ所と通き、此處は平尾の小山長く引出てある故に、長尾と古くより唱來りしものならん、此郡は高山深山もなく分内も狹まし、昔より京都仲津の兩郡は國の中央にして、諸方への街の地なり、郡内土白く、